

家族に囲まれて 自宅で最期の時を過ごす



訪問看護ステーション
かわくぼ
看護師
たかえ重
北館

訪問看護ステーションかわくぼを利用されている方の中には、病院ではなく、住み慣れた施設や自宅で人生の最期を迎える方が増えています。

Bさん（80歳代・男性）は、施設に入居されていましたが、持病が悪化し、ご本人とご家族の意向で、施設を退去し、自宅で最期を迎える事になりました。訪問看護では医

師の指示により、毎日訪問し、全身状態の観察や点滴、清拭などを行いました。日常的に介護されているのが就労されている娘さんです。訪問時には、日常の介護に対する悩みや疲労感、看取りに対する不安などをお聞きし、主治医やケアマネジャー、訪問入浴などのサービスと連携し、不安や疲労感をできるだけ軽減するよう、サポートしました。

自宅での最期の日には妻や娘さん、お孫さんや親戚等たくさんの方々に囲まれ、その時を迎えました。エンゼルケア（逝去時ケア）を行う際

には、妻や娘さんと一緒に洗髪や清拭をし、お気に入りの洋服に着替えました。娘さんから「最期まで一緒にいることができ良かった」とお話しがあり、心に響きました。今後、利用者さんやご家族の思いを尊重し、寄り添った看護を行っていききたいと思います。

